ディボーションノート　９

|  |
| --- |
| 　３月２日(月曜)　サムエル記下　第２０章　アフタースクール(月・水・金)　息子のアブサロムが殺され、ダビデは再び王になります。しかし政権は不安定で、シバが反逆を起します。シバは新しい王国には自分たちの分け前がないと扇動し、ダビデの反対派を集めます。ダビデは新しい将軍アマサに討伐軍を三日で集めるよう命じますが、従う人々が少なく兵を組織するのが遅れました。ダビデはヨアブ将軍を派遣し、ヨアブはシバの討伐に向かいます。その途中で合流した新将軍アマサを暗殺します。ヨアブはエルサレムから出陣し、ガリラヤ湖のさらに北50キロにある町、ベテマアカのアベルにシバを追い詰め、戦わずして滅ぼします。 |
| ３月３日(火曜)　サムエル記下　第２１章　キッズブラウン英会話(火・金)　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　三多摩教区牧師会(陣場教会)　三年の飢饉が国を襲います。神に祈り求めると、あまりに多くの人の血を流した罪に怒られてのことと分かります。神は無益な戦いを好まれない方です。その罪は、かつてサウル王がギベオン人を殺した罪でした。ダビデはどうしたら償えるかをギベオン人に問いかけると、サウルの子孫7人の引渡しを求められます。その7人の中に、メピボセテがいました。サウルの子であり、母親はリヅパ。ダビデは命を救ってくれたヨナタンとの友情と約束を思い出し、メピボセテを惜しみつつ引き渡す決断をします。母親リヅパは半年の間、子供の遺体を鳥たちから守り、歎き悲しみます。いままでのサムエル記録は戦争の連続でしたが、息子を失い母親の切ない思いが記されています。 |
| ３月４日(水曜)　サムエル記下　第２２章　詩篇18篇　ダビデは人生をかえりみつつ、感謝の歌を神にささげます。「主はわが岩」。パレスチナは岩の多い土地です。岩は真実で確実で不変なものを象徴します。まさに神は信頼できる不変で真実なお方です。「城」は守るところ、「盾」は攻撃を防ぐ道具、「避け所」は安全地帯です。ダビデの人生を襲った敵、暴虐、死の綱と罠。そこに神ご自身が低くなられて下られ、救い出してくださった体験を歌うのです。わたしたちも、こう歌うダビデの賛美に合わせて歌いましょう。またここの聖句を自分の祈りの中に取り入れて、新しい言葉で祈りましょう。「主よ、あなたは生きておられる私の救いの岩です。あなたは私を救い出すために来てくださいました。そして大いなる勝利を与えてくださいました。あなたの恵みをほめたたえます。」 |
| ３月５日(木曜)　サムエル記下　第２３章　午前・午後の祈り会　ダビデの最期の言葉です。「よろず備わって確かな、とこしえの契約」を神は真実に、私たちの人生にも実行してくださいます。ダビデが罪を犯した相手のバテシバの祖父はアヒトペルでした。ダビデを追放したアブサロムの参謀で、アヒトペルが授ける作戦は神の言葉のように的確でした。「すぐに追跡してダビデを殺しなさい。」と言う助言を与えましたが、神はホシャイによってアヒトペルの作戦を中止させ、ダビデは逃れることができたのです。神には万事が準備されているご計画があります。わたしたちは神に信頼して、信仰で歩み出す時そのご計画を一つ一つ実際に体験できるのです。これが信仰のダイナミックな恵みです。 |
| ３月６日(金曜)　サムエル記下　第２４章　財務委員会ダビデは人口調査を行います。それを行った後に、心が責められ、「大きな罪を犯しました」と神に祈ります。この人口調査を通じて、ダビデはイスラエルの王として国力を知りたかったのでしょう。しかしこの国の民は神の民であり、勝手に調査することは神の力をはかろうとする罪だ、と分かったのです。悔い改めたダビデに、神は預言者のガデを派遣され、三年の飢饉か、三ヶ月の逃亡生活か、三日の疫病かを選べといわれます。ダビデは悩みつつも、敵の手に陥るよりは、大きな憐れみの神の手に陥ることを選びます。北のダンから南のベエルシバまで、全土に疫病が起こり、七万人が亡くなります。神はダビデに再びガデを派遣され、アラウナの打ち場(麦を脱穀する場所)に祭壇を建てるように命じられ、ダビデは無償ではなく、代価を支払って買い取り、祭壇を築いて犠牲をささげました。こうして災いは終息しました。後にソロモンが神殿を建てる場所、今はイスラム教の岩のドームが建っている場所は、ここと言われます。　　　　　　　　　　 |
| ２月２１日(土曜)　列王記上第１章　合同朝祷会(鳩山新生宣教団)　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　幼児園検討委員会　サムエル記は、預言者サムエルのことと、イスラエルの最初の王サウルと、二代目のダビデについて記されていました。列王記は、ダビデ王晩年から始まり、第三代の王ソロモン、そして王国分裂(北イスラエルと南ユダ)、さらに北王国がアッシリアによって滅ばされ、南王国がバビロンによって滅ぼされるまでの歴史を描いています。「旧約時代の王と預言者」という年表があります。聖書にはさんで活用してください。聖書は道徳の本ではありません。歴史の記録であり、人間ドラマが記録です。文学的な内容、予言的な内容も、歴史から切り離された倫理道徳的な教えを述べているものではありません。歴史とは人間のことですから、そこで生きている人間が、神をどう求めて生きてきたかがしるされています。ですから聖書は本当に面白いのです。 |